	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門・	ゼミ [Introduction	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	園田 博一				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入学し、学し、学し、学し、中の取り方が、けってのな学学が、ストラー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカ	「生徒」と呼ばれ、 学修方法の「何だ 分からない」『レポ 果が得られないまた。 ためには、「聴く」 キルズ」)の習得。 果を確かなものと デーション、ディス、 学修の水準を知り	るがピーチンのできません。高校を生まれる。「どんでは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手を	からに必要となる基礎的、ら「学生」と呼ばれる。 うに」変わったのかも、 出しろと学生と呼がをも、 出しろと学生をおった。 かな大学生活を整理をしている。 が、本とする。「情報を表している。 は、本とする。 は、本とする。 は、本とする。 は、本とする。 は、本とする。 は、本とする。 は、本とする。 は、など、は、など、は、など、は、など、は、など、は、など、は、など、は、など	大学1年生になると 解しないまま受講す のようなものがレオ -事態に陥り易い。現 り技術を段階的に身 ・整理等のメディア	、学修プると、『 『ートか する」「任 けに付け リテラシ	「法それ自体 講義を受けるからない」 「これる」等ので ることで、今 で、アカデミ	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目		ざミを次年度に履			- A - C # - * / \ .	4.7	7	
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式(半】基礎的で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する記 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第3」「445」「445」「445」「445」「445」「445」「445」「44	(1) 一ノート・テイニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リール を 聖性 (1) 一ツのアカカナー (2) 一ツのアカカナー (2) 一ツのアカカナー (2) 一ツの表える (3) 一ツのまる・ビ伝える (2) 一ツのよう・のがある (2) 一ツル (4) では、 (4) では、 (5) では、 (5) では、 (5) では、 (5) では、 (5) では、 (6) では、 (6) では、 (7) では	、キキをボーロには関ッツスミミのレレッスススー、アキキをボーロには、ロッツスミミのレレッスススー、ロググ解解実課タンカララル・・ソファールの基準のでは、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近 いいかい かいかい かいかい	「大学等が」ためのので学が」ためのので学で学ぶ」たまでで学ぶ」たというでは、「大学課導」とは、「大学課導」とは、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学報報を表現を表現し、「大学報報を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	きへの見通しを掴む。 きへの見通しを掴む。 まと整理―【実施・ に要理―【実善の にはまる。 にはなる。 になる。 にな。 になる。 になる。 になる。 になる。 にな。	を掴む、果導の見ののを善いののを善いののである。	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴す	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」 3.「大学で学ぶ」	ために必要となるために必要となる	学修技術を 学修技術を	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	示された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、 返って整理 整理しなが	型を熟読し、学修内容 指導を受けるために必 するとともに、学んだっ ら、課題に再度取り組	、要となる資料作成だ 学修技術を他講義で	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートや打 7回=28点)(講態度、発表 =70点)	断する 是出物が 実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト		会 編著「知への <i>え</i> こて毎回資料を配		大学生からのスタディ・	 スキルズ—(第4版)) (<	ろしお出版、	¥1800+税)
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								

	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門	ゼミ [Introduction	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	宮内 孝				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入学し、 する。これはいる。これはいる。これはいる学での ノートの取り修成が、「アカインで学ぶ・ストラーでで学が、ストラーででは、アカインででは、アカインででは、アカインではないがでは、アカインではないがではないがではないがではないがではないがではないがではないがではないが	「生徒」と呼ばれ、 学修方法の「何だ 分からない」『レポ 果が得られないまた。 ためには、「聴く」 キルズ」)の習得。 果を確かなものと デーション、ディス、 学修の水準を知り	るがピーチンのできません。高校を生まれる。「どんでは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手を	から「必要となる基礎的」 いら「学生」と呼ばれる。 うに」変わわれてのかを理 出しろと学生活を記している。 となったでは、 のな大学生活を理れて過せる。 は、本する。「情報は では、本する。 では、本では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	大学1年生になると解しないまま受講すのようなものがレオー事態に陥り易い。」「まとめる」「表現」 り抜術を段階的に身いで、 ・整理等のメディア	、学修プると、『 『ートか する」「任 けに付け リテラシ	「法それ自体 講義を受けるからない」 「これる」等ので ることで、今 で、アカデミ	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目	0 = 0 11 11 11	ざミを次年度に履			5 A 6 T ## */ = \ .	4.7	7	
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式(半】基礎的で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する認 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第 J 第第 J 第第 「第第 J 第第 J 第第 J 第第 J 第第 J	(1) 一ノート・テイニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リール を 聖性 (1) 一ツのアカカナー (2) 一ツのアカカナー (2) 一ツのアカカナー (2) 一ツの表える (3) 一ツのまる・ビ伝える (2) 一ツのよう・のがある (2) 一ツル (4) では、 (4) では、 (5) では、 (5) では、 (5) では、 (5) では、 (5) では、 (6) では、 (6) では、 (7) では	、キキをボーロには関ッツスミミのレレッスススー、アキキをボーロには、ロッツスミミのレレッスススー、ロググ解解実課タンカララル・・ソファールの基準のでは、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近 いいかい かいかい かいかい	「大学等ぶ」ためのので学ぶ」ためのので学で学ぶ」たというでは、「大学課題を表示」を要して、ない。 「大学課題を表示」を要して、ない。 「大学課題を表示」を要して、ない。 「大学課題を表示」を要して、ののでは、「大学報道」を表示。 「大学報道」を表示。 「大学のでは、「ないは、「ないは、「ないは、「ないは、「ないは、「ないは、「ないは、「ない	た、改善への見通しを掴む。 養と整理―【解説・記 集と整理―【実善の を受け、改善の を受提示】 には導うけ、改善のの は、課導といる。 はは違うである。 ははないる。 はない。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はない。 はないる。 はない。	を掴む、果導の見ののを善いののを善いののである。	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴す	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」 3.「大学で学ぶ」	ために必要となるために必要となる	学修技術を 学修技術を	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	示された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、 返って整理 整理しなが	囲を熟読し、学修内容の 指導を受けるために必 するとともに、学んだ⁴ ら、課題に再度取り組	要となる資料作成 学修技術を他講義で	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートやす 7回=28点)し 講態度、発表 =70点)	断する 是出物が 実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト	また、必要に応し	て毎回資料を配	布する。	大学生からのスタディ・		., _,		
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								

	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門・	ゼミ [Introduction	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	遠藤 晃				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入学し、学し、学し、学し、中の取り方が、けってのな学学が、ストラー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカ	「生徒」と呼ばれ、 学修方法の「何だ 分からない」『レポ 果が得られないまた。 ためには、「聴く」 キルズ」)の習得。 果を確かなものと デーション、ディス、 学修の水準を知り	るがピーチンのできます。	からに必要となる基礎的、ら「学生」と呼ばれる。 うに」変わったのかをもいると学生から、「当しろと学生があるれて過いなと学生があり、「調本科」のは、「は一大が、は、「は、「は、「は、」が、「ない、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、」が、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、」は、「ない、」が、「ない、」は、、」は、いい、は、、は、、は、、は、、は、、は、いい、は、は、は、は、	大学1年生になると 解しないまま受講す のようなものがレオ -事態に陥り易い。現 り技術を段階的に身 ・整理等のメディア	、学修プると、『 『ートか する」「任 けに付け リテラシ	「法それ自体 講義を受けるからない」 「これる」等ので ることで、今 で、アカデミ	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目		ざミを次年度に履			- A - C # - * / \ .	4.7	7	
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式(半】基礎的で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する記 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第3」「445」「445」「445」「445」「445」「445」「445」「44	(1) 一ノート・テイニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リール を 聖性 (1) 一ツのアカル (2) 一ツのアカル (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツル (4) できる (4) 一ツル (4) できる (4) 一川 (4) できる (4) 一川 (4) できる (4) 一川 (4) できる (、キキをバー母では類ッツスミミのレンサイスー、キキをバー母では、アンスミッツポセンサスでは、アンカーターのアンカーのでは、アンカーのアンカーのでは、「ないでは、アンカーのでは、アンカーのアンカーのでは、 アンカー アンカー アンカー アンカー アン・カー・アンカー アンカー アンカー アンカー アンカー アンカー アンカー アンカー	「大学等が」ためのので学が」ためのので学で学ぶ」たまでで学ぶ」たというでは、「大学課導」とは、「大学課導」とは、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学報報を表現を表現し、「大学報報を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	きへの見通しを掴む。 きへの見通しを掴む。 まと整理―【実施・ に要理―【実善の にはまる。 にはなる。 になる。 にな。 になる。 になる。 になる。 になる。 にな。	を掴む、果導の見ののを善いののを善いののである。	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴す	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」 3.「大学で学ぶ」	ために必要となるために必要となる	学修技術を 学修技術を	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	示された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、打 返って整理 整理しなが	型を熟読し、学修内容 指導を受けるために必 するとともに、学んだっ ら、課題に再度取り組	、要となる資料作成? 学修技術を他講義で	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートや打 7回=28点)(講態度、発表 =70点)	断する 是出物が 実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト	また、必要に応じ	て毎回資料を配	布する。	大学生からのスタディ・		., _,		
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								

	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門・	ゼミ [Introduction	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	早川 純子				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入学し、学し、学し、学し、中の取り方が、けってのな学学が、ストラー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカ	「生徒」と呼ばれ、 学修方法の「何だ 分からない」『レポ 果が得られないまた。 ためには、「聴く」 キルズ」)の習得。 果を確かなものと デーション、ディス、 学修の水準を知り	るがピーチンのできません。高校を生まれる。「どんでは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手を	いに必要となる基礎的、ら「学生」と呼ばれる。 うに」変やわったのかをもいるできなわった。 出しろと学生活を超れて過いな大学生活を整理れる。 が、本は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	大学1年生になると 解しないまま受講す のようなものがレオ -事態に陥り易い。現 り技術を段階的に身 ・整理等のメディア	、学修プると、『 『ートか する」「任 けに付け リテラシ	「法それ自体 講義を受けるからない」 「これる」等ので ることで、今 で、アカデミ	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目		ざミを次年度に履		~	- A - C # - * / \ .	4.7	7	
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式(半】基礎的で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する記 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第3」「445」「445」「445」「445」「445」「445」「445」「44	(1) 一ノート・テイニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リール を 聖性 (1) 一ツのアカル (2) 一ツのアカル (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツル (4) できる (4) 一ツル (4) できる (4) 一川 (4) できる (4) 一川 (4) できる (4) 一川 (4) できる (、キキをボーロには関ッツスミミのレレッスススー、アキキをボーロには、ロッツスミミのレレッスススー、ロググ解解実課タンカララル・・ソファールの基準のでは、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近 いいかい かいかい かいかい	「大学等が」ためのので学ぶ」たとので学ぶ」たというで学がまた。 「大学課導】 にまり、 できまれる。 「大学課題を表示」を受情情もある。 「大学課題を表示」を使いて、 できまれる。 「大学課題を表示」を使いて、 できまれる。 「大学課題を表示」を使いて、 できまれる。 「大学課題を表示」を使いて、 できまれる。 「大学のでは、 「「大学のでは、 「大学のでは、 「大学のでは、 「「大学のでは、 「大学のでは、 「「大学のでは、 「大学のは、 「大学のは、 「大学のは、	きへの見通しを掴む。 きへの見通しを掴む。 まと整理―【実施・ に要理―【実善の にはまる。 にはなる。 になる。 にな。 になる。 になる。 になる。 になる。 にな。	を掴む、果導の見ののを善いののを善いののである。	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴す	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」 3.「大学で学ぶ」	ために必要となるために必要となる	学修技術を 学修技術を	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	示された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、 返って整理 整理しなが	目を熟読し、学修内容 指導を受けるために必 するとともに、学んだ。 ら、課題に再度取り約	、要となる資料作成? 学修技術を他講義で	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートや打 7回=28点)(講態度、発表 =70点)	断する 是出物が 実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト	また、必要に応じ	て毎回資料を配	布する。	大学生からのスタディ・		., _,		
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								

	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門・	ゼミ [Introduction	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	若宮 邦彦				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入学し、学し、学し、学し、中の取り方が、けってのな学学が、ストラー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカー・アカ	「生徒」と呼ばれ、 学修方法の「何だ 分からない」『レポ 果が得られないまた。 ためには、「聴く」 キルズ」)の習得。 果を確かなものと デーション、ディス、 学修の水準を知り	るがピーチンのできません。高校を生まれる。「どんでは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手を	からに必要となる基礎的に必要となる基礎的で学生」と呼ばれる。 うに」変わったのかを理ける。と言いるのかをできたが、はいな大学生活を理ける。 は、本とする。情報は、一般をできる。 は、本とする。 は、本とする。 は、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	大学1年生になると 解しないまま受講す のようなものがレオ -事態に陥り易い。現 り技術を段階的に身 ・整理等のメディア	、学修プると、『 『ートか する」「任 けに付け リテラシ	「法それ自体 講義を受けるからない」 「これる」等ので ることで、今 で、アカデミ	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目		ざミを次年度に履			- A - C # - * / \ .	4.7	7	46 4 24 14 44
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式(半】基礎的で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する認 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第3」「445」「445」「445」「445」「445」「445」「445」「44	(1) 一ノート・テイニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リール を 聖性 (1) 一ツのアカル (2) 一ツのアカル (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツル (4) できる (4) 一ツル (4) できる (4) 一川 (4) できる (4) 一川 (4) できる (4) 一川 (4) できる (、キキをボーロには関ッツスミミのレレッスススー、アキキをボーロには、ロッツスミミのレレッスススー、ロググ解解実課タンカララル・・ソファールの基準のでは、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近 いいかい かいかい かいかい	「大学等ぶ」ためのので学ぶ」ためのので学で学ぶ」たというでは、「大学課題を表示」を要して、ない。 「大学課題を表示」を要して、ない。 「大学課題を表示」を要して、ない。 「大学課題を表示」を要して、ののでは、「大学報道」を表示。 「大学報道」を表示。 「大学のでは、「ないは、「ないは、「ないは、「ないは、「ないは、「ないは、「ないは、「ない	きへの見通しを掴む。 きへの見通しを掴む。 まと整理―【実施・ に要理―【実善の にはまる。 にはなる。 になる。 にな。 になる。 になる。 になる。 になる。 にな。	を掴む、果導の見ののを善いののを善いののである。	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴す	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」 3.「大学で学ぶ」	ために必要となるために必要となる	学修技術を 学修技術を	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	示された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、 返って整理 整理しなが	囲を熟読し、学修内容へ 指導を受けるために必 するとともに、学んだ⁴ ら、課題に再度取り組	、要となる資料作成? 学修技術を他講義で	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートや打 7回=28点)(講態度、発表 =70点)	断する 是出物が 実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト		会 編著「知へのえ こて毎回資料を配		大学生からのスタディ・	スキルズ—(第4版)) (<u>(</u>	ろしお出版、	¥1800+税)
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								

	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門	ゼミ [Introduction	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	趙 雪梅				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入学し、 する。これはいる。これはいる。これはいる学での ノートの取り修成が、「アカインで学ぶ・ストラーでで学が、ストラーででは、アカインででは、アカインででは、アカインではないがでは、アカインではないがではないがではないがではないがではないがではないがではないがではないが	「生徒」と呼ばれ、 学修方法の「何だ 分からない」『レポ 果が得られないまた。 ためには、「聴く」 キルズ」)の習得。 果を確かなものと デーション、ディス、 学修の水準を知り	るがピーチンのできます。	からに必要となる基礎的、ら「学生」と呼ばれる。 うに」変わったのかをもいると学生から、「当しろと学生があるれて過いなと学生があり、「調本科」のは、「は一大が、は、「は、「は、「は、」が、「ない、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、」が、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、」は、「ない、」が、「ない、」は、、」は、いい、は、、は、、は、、は、、は、、は、いい、は、は、は、は、	大学1年生になると 解しないまま受講す のようなものがレオ -事態に陥り易い。現 り技術を段階的に身 ・整理等のメディア	、学修プると、『 『ートか する」「任 けに付け リテラシ	「法それ自体 講義を受けるからない」 「これる」等ので ることで、今 で、アカデミ	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目	0 = 0 11 11 11	ざミを次年度に履			- A - C # - * / \ .	4.7	7	
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式(半】基礎的で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する記 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第 J 第第 J 第第 「第第 J 第第 J 第第 J 第第 J 第第 J	(1) 一ノート・テイニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リール を 聖性 (1) 一ツのアカル (2) 一ツのアカル (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツル (4) できる (4) 一ツル (4) できる (4) 一川 (4) できる (4) 一川 (4) できる (4) 一川 (4) できる (、キキをバー母では類ッツスミミのレンサイスー、キキをバー母では、アンスミッツポセンサスでは、アンカーターのアンカーのでは、アンカーのアンカーのでは、「ないでは、アンカーのでは、アンカーのアンカーのでは、 アンカー アンカー アンカー アンカー アン・カー・アンカー アンカー アンカー アンカー アンカー アンカー アンカー アンカー	「大学等が」ためのので学が」ためのので学で学ぶ」たまでで学ぶ」たというでは、「大学課導」とは、「大学課導」とは、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学報報を表現を表現し、「大学報報を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	きへの見通しを掴む。 きへの見通しを掴む。 まと整理―【実施・ に要理―【実善の にはまる。 にはなる。 になる。 にな。 になる。 になる。 になる。 になる。 にな。	を掴む、果導の見ののを善いののを善いののである。	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴す	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」 3.「大学で学ぶ」	ために必要となるために必要となる	学修技術を 学修技術を	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	示された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、打 返って整理 整理しなが	囲を熟読し、学修内容 指導を受けるために必 するとともに、学んだ。 ら、課題に再度取り約	、要となる資料作成? 学修技術を他講義で	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートや打 7回=28点)(講態度、発表 =70点)	断する 是出物が 実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト	また、必要に応し	て毎回資料を配	布する。	大学生からのスタディ・		., _,		
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								

	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門	ゼミ [Introduction	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	金子 幸				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入学し、 する。これはいる。これはいる。これはいる学での ノートの取り修成が、「アカインで学ぶ・ストラーでで学が、ストラーででは、アカインででは、アカインででは、アカインではないがでは、アカインではないがではないがではないがではないがではないがではないがではないがではないが	「生徒」と呼ばれ、 学修方法の「何だ 分からない」『レポ 果が得られないまた。 ためには、「聴く」 キルズ」)の習得。 果を確かなものと デーション、ディス、 学修の水準を知り	るがピーチンのできません。高校を生まれる。「どんでは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手を	から「必要となる基礎的」 いら「学生」と呼ばれる。 うに」変わわれてのかを理 出しろと学生活を記している。 となったでは、 のな大学生活を理れて過せる。 は、本する。「情報は では、本する。 では、本では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	大学1年生になると 解しないまま受講す のようなものがレオ -事態に陥り易い。現 り技術を段階的に身 ・整理等のメディア	、学修プると、『 『ートか する」「位 けに付け リテラシ	「法それ自体 講義を受けるからない」 「これる」等ので ることで、今 で、アカデミ	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目	0 = 0 11 11 11	ざミを次年度に履			- A - C # - * / \ .	4.7	7	
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式(半】基礎的で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する認 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第 J 第第 J 第第 「第第 J 第第 J 第第 J 第第 J 第第 J	(1) 一ノート・テイニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リール を 聖性 (1) 一ツのアカル (2) 一ツのアカル (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツル (4) できる (4) 一ツル (4) できる (4) 一川 (4) できる (4) 一川 (4) できる (4) 一川 (4) できる (、キキをボーロには関ッツスミミのレレッスススー、アキキをボーロには、ロッツスミミのレレッスススー、ロググ解解実課タンカララル・・ソファールの基準のでは、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近 いいかい かいかい かいかい	「大学等ぶ」ためのので学ぶ」ためのので学で学ぶ」たというでは、「大学課題を表示」を要して、ない。 「大学課題を表示」を要して、ない。 「大学課題を表示」を要して、ない。 「大学課題を表示」を要して、ののでは、「大学報道」を表示。 「大学報道」を表示。 「大学のでは、「ないは、「ないは、「ないは、「ないは、「ないは、「ないは、「ないは、「ない	きへの見通しを掴む。 きへの見通しを掴む。 まと整理―【実施・ に要理―【実善の にはまる。 にはなる。 になる。 にな。 になる。 になる。 になる。 になる。 にな。	を掴む、果導の見ののを善いののを善いののである。	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴す	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」 3.「大学で学ぶ」	ために必要となるために必要となる	学修技術を 学修技術を	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	示された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、 返って整理 整理しなが	囲を熟読し、学修内容の 指導を受けるために必 するとともに、学んだ⁴ ら、課題に再度取り組	、要となる資料作成? 学修技術を他講義で	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートや打 7回=28点)(講態度、発表 =70点)	断する 是出物が 実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト	また、必要に応し	て毎回資料を配	布する。	大学生からのスタディ・		., _,		
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								

	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門・	ゼミ [Introductio	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	福富 隆志				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入学し、大学に入学し、大学にもなり、一の取り方が、一ちのな学学が、ストラー・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス	「生徒」と呼ばれ、学修方法の「何だ分からない」「レス 学がらない」「レス 果が得られないまた。 ためには、「聴く」 キルズ」)の習得、 果を確かなものと デーション、ディス、 学修の水準を知り	るが、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	かに必要となる基礎的、ら「学生」と呼ばれる。 うに」変わるのかであるれて過せたといると学生と呼がをもりなた学れる。 がは、おいでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	大学1年生になると解しないまま受講すのようなものがレオー事態に陥り易い。」「まとめる」「表現」 り抜術を段階的に身いで、 ・整理等のメディア	、学修プると、『 『ートか する」「位 けに付け リテラシ	「法それ自体 講義を受けるからない」 「これる」等ので ることで、今 で、アカデミ	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目		ごきを次年度に履			5 A 6 T ## */ = \ .	4.7	7	
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式(半)基礎的で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する記 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第 J 第第 J 第第 「第第 J 第第 J 第第 J 第第 J 第第 J	」の学び方の違し、(1)―ノート・テイ: (1)―ノート・テイ: (1)―ノート・テイ: (グの基・バーノート・ティ: (2)―リーディンのは、(2)―リーディンのでは、(2)―リーディンのでは、(2)―リーディンのでは、(2)―リールのでは、(2)―アのアのアアのようでは、(3)―アのようでは、(3)――プロールでは、(3)――プロールでは、(3)――プロールでは、(3)――プロールでは、(3)――プロールでは、(3)――プロールでは、(3)――プロールでは、(3)――プロールでは、(3)――プロールでは、(3)――プロールでは、(3)――プロールでは、(3)――プロールでは、(3)――プロールでは、(3)――――――――――――――――――――――――――――――――――――	、キキを、一足・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「大学で学ぶ」ためのの解析を表示を受け、ない、 「大学で学ぶ」たという。 「大学で学ぶ」たという。 「大学で学ぶ」を要して、 「大学で要提出 「「大学で要提出 「「大学で要提出 「「「大学で要提出 「「「大学で要提出 「「「「大学で要提出 「「「「大学で要求」を要して、 「「「大学で表示」を要して、 「「「大学で表示」を要して、 「「「大学で表示」を要して、 「「大学で表示」を要して、 「「大学で表示」を要して、 「「大学で表示」を要して、 「大学で表示」を要して、 「大学で表示」を要して、 「大学で表示」を要して、 「大学で、 「 「 「 「 「 「 「 「 「	た、改善への見通しを掴む。 養と整理―【解説・記 集と整理―【実善の を受け、改善の を受提示】 には導うけ、改善のの は、課導といる。 はは違うである。 ははないる。 はない。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はない。 はないる。 はない。	を掴む、果導の見ののを善いののを善いののである。	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴す	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」; 3.「大学で学ぶ」;	ために必要となるために必要となる	学修技術を 学修技術を	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	示された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、 亙って整理 整理しなが	国を熟読し、学修内容 指導を受けるために必 するとともに、学んだ。 ぶら、課題に再度取り約	要となる資料作成 学修技術を他講義で	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートやす 7回=28点)し 講態度、発表 =70点)	断する 是出物が 実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト	また、必要に応じ	て毎回資料を配	布する。	大学生からのスタディ・		., _,		
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								

	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門	ゼミ [Introduction	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	藤本 朋美				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入する。 する。これはり方でのノートの取りをかった。 うちされまりをですが、 「アカインで学学・アカインでもれる学学が・スペープでは、 できるができないでは、 できるができない。 を目標とする。	「生徒」と呼ばれ、 学修方法の「何だ 分からない」『レポ 果が得られないまた。 ためには、「聴く」 キルズ」)の習得。 果を確かなものと デーション、ディス、 学修の水準を知り	るがピーチンのできまれる。高がピーチンのできまれる。これできまれるできまれる。これできまれる。これでは、これがは、これがは、これがは、これがは、これがは、これがは、これがは、これが	かに必要となる基礎的、ら「学生」と呼ばれる。 うに」変わるのかであるれて過せたといると学生と呼がをもりなた学れる。 がは、おいでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	大学1年生になると解しないまま受講すのようなものがレオー事態に陥り易い。」「まとめる」「表現」 り抜術を段階的に身いで、 ・整理等のメディア	、学修プると、『 『ートか する」「位 けに付け リテラシ	「法それ自体 講義を受けるからない」 「これる」等ので ることで、今 で、アカデミ	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目		ざミを次年度に履			5 A 6 T ## */ = \ .	4.7	7	
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式 半】基礎的 で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する記 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第 J 第第	(1) 一ノート・テイニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リール を 聖性 (1) 一ツのアカル (2) 一ツのアカル (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツル (4) できる (4) 一ツル (4) できる (4) 一川 (4) できる (4) 一川 (4) できる (4) 一川 (4) できる (、キキをボーロには、「単語・ない、ステンション・キキをボーロ、イイやク・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	「大学で学ぶ」ためのの解析を表示を受け、ない、 「大学で学ぶ」たという。 「大学で学ぶ」たという。 「大学で学ぶ」を要して、 「大学で要提出 「「大学で要提出 「「大学で要提出 「「「大学で要提出 「「「大学で要提出 「「「「大学で要提出 「「「「大学で要求」を要して、 「「「大学で表示」を要して、 「「「大学で表示」を要して、 「「「大学で表示」を要して、 「「大学で表示」を要して、 「「大学で表示」を要して、 「「大学で表示」を要して、 「大学で表示」を要して、 「大学で表示」を要して、 「大学で表示」を要して、 「大学で、 「 「 「 「 「 「 「 「 「	た、改善への見通しを掴む。 養と整理―【解説・記 集と整理―【実善の を受け、改善の を受提示】 には導うけ、改善のの は、課導といる。 はは違うである。 ははないる。 はない。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はない。 はないる。 はない。	を掴む、果導の見ののを善いののを善いののである。	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴す	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」 3.「大学で学ぶ」	ために必要となるために必要となる	学修技術?	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	示された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、 返って整理 整理しなが	国を熟読し、学修内容 指導を受けるために必 するとともに、学んだっ ら、課題に再度取り組	要となる資料作成 学修技術を他講義で	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	:説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートや打 7回=28点) 講態度、発表 =70点)	断する 是出物が 実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト	また、必要に応し	て毎回資料を配	布する。	大学生からのスタディ・		., _,		
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								

	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門・	ゼミ [Introduction	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	野村 宗嗣				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入学し、学し、学し、学し、中の取り方が、一の取りを必ずでから、「アカ・ス学ででからない。」では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学	「生徒」と呼ばれ、 学修方法の「何だ 分からない」『レポ 果が得られないまた。 ためには、「聴く」 キルズ」)の習得。 果を確かなものと デーション、ディス、 学修の水準を知り	るがピーチンのできません。高校を生まれる。「どんでは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手を	からに必要となる基礎的、ら「学生」と呼ばれる。 うに」変わったのかも、 出しろと学生と呼がをも、 出しろと学生をおった。 かな大学生活を整理をしている。 が、本とする。「情報を表している。 は、本とする。 は、本とする。 は、本とする。 は、本とする。 は、本とする。 は、本とする。 は、本とする。 は、など、は、など、は、など、は、など、は、など、は、など、は、など、は、など	大学1年生になると 解しないまま受講す のようなものがレオ -事態に陥り易い。現 り技術を段階的に身 ・整理等のメディア	、学修プると、『 『ートか する」「位 けに付け リテラシ	「法それ自体 講義を受けるからない」 「これる」等ので ることで、今 で、アカデミ	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目		ざミを次年度に履			- A - C # - * / \ .	4.7	7	
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式(半】基礎的で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する記 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第3」「445」「445」「445」「445」「445」「445」「445」「44	(1) 一ノート・テイニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リール を 聖性 (1) 一ツのアカル (2) 一ツのアカル (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツル (4) できる (4) (4) でき	、キキをボーロには関ッツスミミのレレッスススー、アキキをボーロには、ロッツスミミのレレッスススー、ロググ解解実課タンカララル・・ソファールの基準のでは、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近 いいかい かいかい かいかい	「大学等が」ためのので学が」ためのので学で学ぶ」たまでで学ぶ」たというでは、「大学課導」とは、「大学課導」とは、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学報報を表現を表現し、「大学報報を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	きへの見通しを掴む。 きへの見通しを掴む。 まと整理―【実施・ に要理―【実善の にはまる。 にはなる。 になる。 にな。 になる。 になる。 になる。 になる。 にな。	を掴む、果導の見ののを善いののを善いののである。	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴す	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」 3.「大学で学ぶ」	ために必要となるために必要となる	学修技術を 学修技術を	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	示された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、 返って整理 整理しなが	囲を熟読し、学修内容 指導を受けるために必 するとともに、学んだ。 ら、課題に再度取り約	、要となる資料作成? 学修技術を他講義で	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートや打 7回=28点)(講態度、発表 =70点)	断する 是出物が 実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト		会 編著「知への <i>え</i> こて毎回資料を配		大学生からのスタディ・	 スキルズ—(第4版)) (<	ろしお出版、	¥1800+税)
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								

	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門・	ゼミ [Introduction	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	山田 裕司				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入学し、学し、学し、学し、中の取り方が、一の取りを必ずでから、「アカ・ス学ででからない。」では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学	「生徒」と呼ばれ、 学修方法の「何だ 分からない」『レポ 果が得られないまた。 ためには、「聴く」 キルズ」)の習得。 果を確かなものと デーション、ディス、 学修の水準を知り	るがピーチンのできまれる。高がピーチンのできまれる。これできまれるできまれる。これできまれる。これでは、これがは、これがは、これがは、これがは、これがは、これがは、これがは、これが	りに必要となる基礎的、ら「学生」と呼ばれる。 うに」変と言と呼かれる。 対しろと学生のかものれて過いまた。 対しる大学なり「語楽日とのでは、 がでいまでは、「ないでは、 がい、本とする。、情楽をは、 は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	大学1年生になると解しないまま受講すのようなものがレオー事態に陥り易い。」「まとめる」「表現」 り抜術を段階的に身いで、 ・整理等のメディア	、学修プると、『 『ートか する」「位 けに付け リテラシ	「法それ自体 講義を受けるからない」 「これる」等ので ることで、今 で、アカデミ	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目		ざミを次年度に履			5 A 6 T ## */ = \ .	4.7	7	
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式 半】基礎的 で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する記 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第3」「19」「19」「19」「19」「19」「19」「19」「19」「19」「19	(1) 一ノート・テイニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リール を 聖性 (1) 一ツのアカル (2) 一ツのアカル (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツル (4) できる (4) (4) でき	、キキをボーロには、「単語・ない、ステンション・キキをボーロ、イイやク・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	「大学で学ぶ」ためのの解析では、「大学で学ぶ」たりで、「大学で学ぶ」たり、「大学で要提出を表示」を要は指導とは、「大学で要提出を表示」を要は、「大学で要提出を表示」を要して、「大学で要求」を要して、「大学で要求」を要して、「大学で要求」を要して、「大学で要求」を要して、「大学で要求」を要して、「大学で、「大学で、「大学で、「大学で、「大学で、「大学で、「大学で、「大学で	た、改善への見通しを掴む。 養と整理―【解説・記 集と整理―【実善の を受け、改善の を受提示】 には導うけ、改善のの は、課導といる。 はは違うである。 ははないる。 はない。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はない。 はないる。 はない。	を掴む、果導の見ののを善いののを善いののである。	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴す	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」 3.「大学で学ぶ」	ために必要となるために必要となる	学修技術?	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	示された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、 返って整理 整理しなが	囲を熟読し、学修内容 指導を受けるために必 するとともに、学んだら ぶら、課題に再度取り組	要となる資料作成 学修技術を他講義で	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	:説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートや打 7回=28点) 講態度、発表 =70点)	断する 是出物が 実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト	また、必要に応じ	て毎回資料を配	布する。	大学生からのスタディ・		., _,		
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								

	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門・	ゼミ [Introduction	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	酒井 喜八郎				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入学し、学し、学し、学し、中の取り方が、一の取りを必ずでから、「アカ・ス学ででからない。」では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学	「生徒」と呼ばれ、 学修方法の「何だ 分からない」『レポ 果が得られないまた。 ためには、「聴く」 キルズ」)の習得。 果を確かなものと デーション、ディス、 学修の水準を知り	るがピーチンのできません。高校を生まれる。「どんでは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手をは、一手を	からに必要となる基礎的、ら「学生」と呼ばれる。 うに」変わったのかも、 出しろと学生と呼がをも、 出しろと学生をおった。 かな大学生活を整理をしている。 が、本とする。「情報を表している。 は、本とする。 は、本とする。 は、本とする。 は、本とする。 は、本とする。 は、本とする。 は、本とする。 は、など、は、など、は、など、は、など、は、など、は、など、は、など、は、など	大学1年生になると 解しないまま受講す のようなものがレオ -事態に陥り易い。現 り技術を段階的に身 ・整理等のメディア	、学修プると、『 『ートか する」「位 けに付け リテラシ	「法それ自体 講義を受けるからない」 「これる」等ので ることで、今 で、アカデミ	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目		ざミを次年度に履			- A - C # - * / \ .	4.7	7	
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式(半】基礎的で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する記 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第第」第第「第3」「19」「19」「19」「19」「19」「19」「19」「19」「19」「19	(1) 一ノート・テイニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リール を 聖性 (1) 一ツのアカル (2) 一ツのアカル (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツル (4) できる (4) (4) でき	、キキをボーロには関ッツスミミのレレッスススー、アキキをボーロには、ロッツスミミのレレッスススー、ロググ解解実課タンカララル・・ソファールの基準のでは、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近、近 いいかい かいかい かいかい	「大学等が」ためのので学が」ためのので学で学ぶ」たまでで学ぶ」たというでは、「大学課導」とは、「大学課導」とは、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学報報を表現を表現し、「大学報報を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	きへの見通しを掴む。 きへの見通しを掴む。 まと整理―【実施・ に要理―【実善の にはまる。 にはなる。 になる。 にな。 になる。 になる。 になる。 になる。 にな。	を掴む、果導の見ののを善いののを善いののである。	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴す	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」 3.「大学で学ぶ」	ために必要となるために必要となる	学修技術を 学修技術を	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	示された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、 返って整理 整理しなが	囲を熟読し、学修内容 指導を受けるために必 するとともに、学んだ。 ら、課題に再度取り約	、要となる資料作成? 学修技術を他講義で	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	:説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートや打 7回=28点)(講態度、発表 =70点)	断する 是出物が 実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト		会 編著「知への <i>え</i> こて毎回資料を配		大学生からのスタディ・	スキルズ—(第4版) (<	ろしお出版、	 ¥1800+税)
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								

	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門・	ゼミ [Introduction	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	田中 直美				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入学し、大学に入学し、大学にもなり、一の取り方が、一ちのな学学が、ストラー・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス	「生徒」と呼ばれ、学修方法の「何だ分からない』『レポテからない』『レポ 果が得られないまたい「まめには、「昭では、「昭では、「ででなった」)の習得は、「でいる」と、ディス、学修の水準を知り	るがパーまでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	かに必要となる基礎的、ら「学生」と呼ばれる。 うに」変わるのかであるれて過せたといると学生と呼がをもりなた学れる。 がは、おいでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	大学1年生になると解しないまま受講すのようなものがレオー事態に陥り易い。」「まとめる」「表現」 り抜術を段階的に身いで、 ・整理等のメディア	、学修プると、『 『ートか する」「位 けに付け リテラシ	「法それ自体 講義を受けるからない」 「こことで、今」 「こことで、今」 「こことで、今」	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目		ざきを次年度に履			5 A 6 T ## */ = \ .	4.7	7	
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式 半】基礎的 で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する記 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第 J 第第 J 第第 「第第 J 第第 J 第第 J 第第 J 第第 J	」の学び方の違い。 (1)―ノート・テイニッグの基本では、1)―ノート・テイニッグの基本では、1)―ノート・テイニッグの基本では、2)―リーディを理性では、1)―のでは、1)―のでは、1)―のアクリーでは、1)―のアクリーでは、1)―のアクリーでは、1)―のアクリーでは、1)―のアクリーでは、1)―のようないは、1)―のようないは、1	、キキを、「叫は、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「大学で学ぶ」ためのの解析を表示を受け、ない、 「大学で学ぶ」たという。 「大学で学ぶ」たという。 「大学で学ぶ」を要して、 「大学で要提出 「「大学で要提出 「「大学で要提出 「「「大学で要提出 「「「大学で要提出 「「「「大学で要提出 「「「「大学で要求」を要して、 「「「大学で表示」を要して、 「「「大学で表示」を要して、 「「「大学で表示」を要して、 「「大学で表示」を要して、 「「大学で表示」を要して、 「「大学で表示」を要して、 「大学で表示」を要して、 「大学で表示」を要して、 「大学で表示」を要して、 「大学で、 「 「 「 「 「 「 「 「 「	た、改善への見通しを掴む。 養と整理―【解説・記 集と整理―【実善の を受け、改善の を受提示】 には導うけ、改善のの は、課導といる。 はは違うである。 ははないる。 はない。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はない。 はないる。 はない。	を掴む、果導の見ののを善いののを善いののである。	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴す	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」; 3.「大学で学ぶ」;	ために必要となるために必要となる	学修技術。 学修技術。	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	示された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、 返って整理 整理しなが	国を熟読し、学修内容 指導を受けるために必 するとともに、学んだっ ら、課題に再度取り組	要となる資料作成 学修技術を他講義で	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートや打 7回=28点) 講態度、発表 =70点)	断する 是出物が 実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト	また、必要に応じ	て毎回資料を配	布する。	大学生からのスタディ・		., _,		
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								

	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門	ゼミ [Introductio	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	瀬戸口 裕二				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入する。 する。これはり方でのノートの取りをかった。 うちされまりをですり、 「アカインで学学・アカインでもれる学学が・スペープでは、 ででは、 でかれる学ができません。 を目標とする。	「生徒」と呼ばれ、学修方法の「何だけられるいまで、 学修方法の「何だけられないまた。 ためには、「ででは、「ででは、」の習得は、 キルズ」)の習得は、 まを確かなものと、 デーション、ディス、 学修の水準を知り	るがピーキングのできますが、アーキのでは、アーキンのできまれるできる。これできまれていますが、これがある。これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、	りに必要となる基礎的、ら「学生」と呼ばれる。 うに」変と言と呼かれる。 対しろと学生のかものれて過いまた。 対しる大学なり「語楽日とのでは、 がでいまでは、「ないでは、 がい、本とする。、情楽をは、 は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、「ないでは、 は、「は、「ないでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	大学1年生になると解しないまま受講すのようなものがレオー事態に陥り易い。」「まとめる」「表現」 り抜術を段階的に身いで、 ・整理等のメディア	、学修プると、『 『ートか する」「位 けに付け リテラシ	「法それ自体 講義を受け 分からない』 云える」等の ることで、今 一、アカデミ	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目		ざきを次年度に履			5 A 6 T ## */ = \ .	4.7	F-24 \1/ 3 ++ +++	
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式 半】基礎的 で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する記 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第 J 第第	(1) 一ノート・テイング (1) 一ノート・ティング (1) 一ノート・ティング (1) 一ノート・ティング (2) 一ノート・ティング (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リール 図書 (2) 一アカール (2) 一アのアアの (2) 一ツ (3) では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	、キキをボーロには、では、アンスを、アンスを、アンスでは、アンスでは、アンスでは、アンスでは、アンスでは、アンスのでは、アンないのでは、アンスのでは、アンないのでは、アンスのでは、アンスのでは、アンないのでは、アンないのでは、アンないのでは、アンないのでは、アンないのでは、アンないのではないのでは、アンないのではないのではないでは、アンないのでは、アンないでは、アンないでは、アンないでは、アンないのでは	「大学で学ぶ」ためのの解析では、「大学で学ぶ」たりで、「大学で学ぶ」たり、「大学で要提出を表示」を要は指導とは、「大学で要提出を表示」を要は、「大学で要提出を表示」を要して、「大学で要求」を要して、「大学で要求」を要して、「大学で要求」を要して、「大学で要求」を要して、「大学で要求」を要して、「大学で、「大学で、「大学で、「大学で、「大学で、「大学で、「大学で、「大学で	た、改善への見通しを掴む。 養と整理―【解説・記 集と整理―【実善の を受け、改善の を受提示】 には導うけ、改善のの は、課導といる。 はは違うである。 ははないる。 はない。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はないる。 はない。 はないる。 はない。	を掴む、果導の見ののを善いののを善いののである。	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴む	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」 3.「大学で学ぶ」	ために必要となるために必要となる	学修技術?	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	宗された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、 返って整理 整理しなか	囲を熟読し、学修内容 指導を受けるために必 するとともに、学んだら ぶら、課題に再度取り組	要となる資料作成 学修技術を他講義で	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	·説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートや打 7回=28点) 講態度、発表 =70点)	断する 是出物が 実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト	また、必要に応し	て毎回資料を配	布する。	大学生からのスタディ・		., _,		
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								

	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門	ゼミ [Introduction	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	園田 博一				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入学し、 する。これはいる。これはいる。これはいる学での ノートの取り修成が、「アカインで学ぶ・ストラーででは、一大学ではないでは、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学	「生徒」と呼ばれ、 学修方法の「何だ 分からない」『レポ 果が得られないまた。 ためには、「聴く」 キルズ」)の習得。 果を確かなものと デーション、ディス、 学修の水準を知り	るがピーチンのできまれる。高いできませんでのというできませい。これできませい。これできませい。これできませんがある。これでは、これがは、これがは、これがは、これがは、これがは、これがは、これがは、これが	からに必要となる基礎的、ら「学生」と呼ばれる。 うに」変わったのかをもいると学生から、「当しろと学生があるれて過いなと学生があり、「調本科」のは、「は一大が、は、「は、「は、「は、」が、「ない、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、」が、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、」が、「ない、「ない、」が、「ない、」は、「ない、」が、「ない、」は、、」は、いい、は、、は、、は、、は、、は、、は、いい、は、は、は、は、	大学1年生になると 解しないまま受講す のようなものがレオ -事態に陥り易い。現 り技術を段階的に身 ・整理等のメディア	、学修プると、『 『ートか する」「位 けに付け リテラシ	「法それ自体 講義を受けるからない」 「こことで、今」 「こことで、今」 「こことで、今」	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目	0 = 0 11 11 11	ざミを次年度に履			- A - C # - * / \ .	4.7	7	
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式 半】基礎的 で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する記 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第 J 第第 J 第第 「第第 J 第第 J 第第 J 第第 J 第第 J	(1) 一ノート・テイニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(1) 一ノート・ティニ・(2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リール を 聖性 (1) 一ツのアカル (2) 一ツのアカル (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツのまる (2) 一ツル (4) できる (4) (4) でき	、キキをボーロには、「単語・ない、ステンション・キキをボーロ、イイやク・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	「大学等が」ためのので学が」ためのので学で学ぶ」たまでで学ぶ」たというでは、「大学課導」とは、「大学課導」とは、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学課題を表示」を受け、「大学報報を表現を表現し、「大学報報を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	き、改善への見通しを掴む。 を整理―【解説・記録を登理―【実善の を整理―【実善の をででである。 をではます。 をでいまする。 をではまする。 とはまする。 をではまする。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはまる。 とはなる。 とはなる。 とはなる。 とはなる。 とはなる。 とはなる。 とはなる。 とはなる。 とはなる。 とはなる。 とはなる。 と	を掴む、果導の見ののを善いののを善いののである。	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴す	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」 3.「大学で学ぶ」	ために必要となるために必要となる	学修技術?	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	示された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、 返って整理 整理しなが	囲を熟読し、学修内容 指導を受けるために必 するとともに、学んだ。 ら、課題に再度取り約	、要となる資料作成だ 学修技術を他講義で	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	:説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートや打 7回=28点)(講態度、発表 =70点)	断する 是出物が 実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト	また、必要に応し	て毎回資料を配	布する。	大学生からのスタディ・		., _,		
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								

	Mir	nami Kyu	ıshu	University	Syllabus			
シラバス年度	2021	開講キャンパ	パス	都城キャンパス	開設学科		子ども	教育学科
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門	ゼミ [Introductio	n Seminar	in Child Education]	実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	0
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当	学年	1年次
教員氏名	本田 和也				学位授与の方針 との関連		DP1(2) DP	2(2)
授業概要	大学に入学し、 する。これはりたが ノートの取りをがい 「アカス学で学ったが、 「アカイス学で学った成ったが、 特さが中ででから、 行さが中ででからない。 を目標とする。	「生徒」と呼ばれ、学修方法の「何だけない」学修方法の「何だけない」とす。 実が得られないまた。 ためには、「ででは」の習得は キルズ」)の習得は 果を確かなものと デーション、ディス、 学修の水準を知り	るが、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは	こ必要となる基礎的ないら「学生」と呼ばれる。 うに」変わるののかる。 うに」変わったまをわった。 うしろと学生ののでは、 いて、 いて、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	大学1年生になると解しないまま受講すのようなものがレオー事に陥り易い。」「まとめる」「表現り技術を段階的によりを取りにより、表現で、整理等のメディア	、学修力 けると、『 ポートか する」「任 けこけけ リテラシ	「法それ自体 講義を受けて 分からない』 云える」等ので ることで、今 で、アカデミ	ていても、 と戸惑い、期 学修技術(= 後4年間で期 ック・ライティ
関連する科目	0 = 0 11 11 11	ざきを次年度に履			5 A 6 C # # (3)	1 4. 7	7	
授業の進め方と方法	術に関する解説 認問題等)の提出 う。毎回、前半(及び課題提示を「 出を求める。【後き	講義形式 半】基礎的 で出された	題提示1回、指導1回の (受講生全員)」で行う な学修技術に関する記 課題の提出を求める。	。毎回、授業に関す 果題の評価及び指導	ナるミニ	レポート(感想	思、質問、確
授業計画	「第第 J 第第 J 第第 「第第 J 第第 J 第第 J 第第 J 第第 J	(1) 一ノート・テイング (1) 一ノート・ティング (1) 一ノート・ティング (1) 一ノート・ティング (2) 一ノート・ティング (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リーボール (2) 一リール 図書 (2) 一アカール (2) 一アのアアの (2) 一ツ (3) では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	、キキをボーロには、「単語・ない、ステンション・キキをボーロ、イイやク・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	「大学で学ぶ」ためのの解析を表示を受け、ない、 「大学で学ぶ」たという。 「大学で学ぶ」たという。 「大学で学ぶ」を要して、 「大学で要提出 「「大学で要提出 「「大学で要提出 「「「大学で要提出 「「「大学で要提出 「「「「大学で要提出 「「「「大学で要求」を要して、 「「「大学で表示」を要して、 「「「大学で表示」を要して、 「「「大学で表示」を要して、 「「大学で表示」を要して、 「「大学で表示」を要して、 「「大学で表示」を要して、 「大学で表示」を要して、 「大学で表示」を要して、 「大学で表示」を要して、 「大学で、 「 「 「 「 「 「 「 「 「	た、改善への見通しを掴む 善への見通しを掴む 書と整理―【解説: 書導課題一【改善へ 記指等更け、改善への 説指等更け、改善への 説指等更け、改善への 説指等更け、改善への 表に指導を受け、改善への 表に指導を受け、改善へ とに指導を受け、改善へ とにおいる。	を掴む、果導の見のので、	- しを掴む を掴む しを掴む 見通しを掴す	
授業の到達目標	2.「大学で学ぶ」 3.「大学で学ぶ」	ために必要となるために必要となる	学修技術?	を活用して、よりよく学				
授業時間外の学修	(実践指導前)提 【復習】(解説後) (実践指導後)指	宗された課題に 学修内容を振り 導内容の要点を	取り組み、 返って整理 整理しなが	国を熟読し、学修内容 指導を受けるために必 するとともに、学んだっ ら、課題に再度取り組	・要となる資料作成 学修技術を他講義 ⁻	を行うこ	と。 -ること。	
課題に対する フィードバック	提出課題は、授	業時間に評価・解	:説を行う。 	評価方法	(オリエンテー 講態度から判 ニレポートや: 7回=28点) 講態度、発表 =70点)	断する 提出物が (実践指	(2点) (解説 いら判断する 導)課題の耳)出席時のミ (各回4点× なり組みや受
テキスト	また、必要に応し	て毎回資料を配	布する。	大学生からのスタディ・				
参考書				ミナー 学習マニュアル 反 充実した大学生活を				
備考								